

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104249		
法人名	株式会社 MURO		
事業所名(ユニット名)	グループホーム太陽のおうち なごみユニット		
所在地	和歌山市山口西385-1		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が自宅で過ごしているような、不安なく楽しいその人らしい生活を送られ、スタッフを家族のように思ってもらえ、アットホームな雰囲気です日々穏やかに過ごされている。また、季節感を感じて頂くために食事には旬の食材を取り入れ、イベントでは季節毎に行い、初午の餅ほりやお花見、納涼祭やクリスマス会など、ご家族様や地域の方々と共に楽しんで頂いている。ご家族様や地域、医療と密に連携を取り、スタッフ一丸となり入居者様の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はグループホームの本来の目的を意識し、入居者が住み慣れた地域でこれまでの関係性を継続し、また地域の行事にも参加することで、これまで築いてきた地域とのかかわりが途切れることがないように実践している。職員も家庭的な雰囲気作りの中で生活できるように、日々の関わりの中で、環境整備を行っている。グループホームの姿勢を貫き、日々24時間365日訪問、見学できるように配慮している。看取りに関しても、豊富な医療的な知識と、実績をもって重度化や終末期のケアに取り組んでいる。常に先を予測することを心掛け、その人らしい普通の生活が継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族、スタッフ、地域等で理念を共有し、実践している。また、施設の理念とは別に、ユニットの理念をスタッフで検討し、触れやすい場所に掲示し実践している。	「一緒にいるのが楽しいよ」と法人理念を掲げ、取組業務、地域、社会資源へと広がっていくことを目標としている。各ユニットには毎年職員が独自に考えた理念を掲げ、理念に基づいた日々実践を行っている。また評価を行い日々の振り返りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	初午など地域の行事に参加し、餅ほり等楽しまれている。また、散歩に出かけた際に挨拶や、声をかけていただいたりと交流がある。	地域との関わりはイベントや行事の相互関係にとらわれず、日々の入居者と地域住民の何気ない挨拶から始まる普段の関わりを大切に、地域の関わりが日々の関わりとして入居者、職員に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に相談を受けた場合、認知症の正しい理解や、安心して暮らせるよう支援方法等アドバイス出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、施設での取り組みや行事等の報告、自治会長や地域包括センターの方から地域での取り組みを聞き、ご家族様の要望も聞いて意見交換し、サービスの向上につなげている。	運営推進会議は職員の振り返りのための自己評価のための実践としてとらえ、事業所の取組や入居者の状況などの意見交換を行っている。入居者は手作りのお菓子を作り、皆に配ってもらう役割を担っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携を密にとり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとの連携を密にとり、地域の社会資源開発に尽力している。市とは会議以外の指導、監査の書類の確認や、普段の相談などは日常的に連携がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修により、身体拘束について、スタッフ全員、理解を深めており、ホームでは玄関の施錠せず、見守り付添いを行い、日常的に支援し取り組んでいる。	内部研修においては、職員が年間計画を立て、担当者を決め全員で研修を行っている。身体拘束の研修は隔月に行い、認知症、医療を含めて総合的に研修を行い日々業務に生かしている。玄関は出入りができるように概ね開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修で学び、周知徹底している。日々のケアの中で言葉使いや、声かけについて適切に行なわれているか、虐待につながらないか、スタッフ間注意しあい、徹底して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を行い、権利擁護について学び、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様が納得いくように、不明な点は明確にお答えし、話し合い、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、イベント、運営推進会議などでかかる時間を設け、意見要望をお聞きし、運営に反映出来るよう取り組んでいる。	家族の面会は常にあり、日ごろから職員との信頼関係が築けている。推進会議の中でも家族から意見や発言ができる環境が整っていて、意見や要望が話しやすい環境に置かれていて、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理者会議で運営に関する状況報告を受け、またスタッフの意見や提案を報告している。	毎日の申し送りや、日々の業務の中で業務改善の提案を行っている。重要なことは会議で報告、月1回の管理者会議や全体会議の中で協議してスタッフの要望等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人を把握されており、個々に指示していただける事で、向上心と自信を持って働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスタッフの力量を把握されているので、今の状況に合わせたアドバイス、研修を進めてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医大看護大学の実習生を受け入れている。カンファレンスを通し、意見を交換している。施設外への研修を勧め、交流を促しサービスの質の向上を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時にご本人様とご家族様と十分な時間をかけ、不安や要望等を傾聴し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から不安や要望を聞き支援についてご説明し、その都度、変化があれば報告・相談し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様からの要望をお聞きし、本人様にとって、今、何を優先して支援が必要かを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族のように寄り添い、人生の先輩として、暮らしの中でいろいろな事を教わり、お互いを支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と十分な話し合いをし、要望をお聞きしている。面会や外出、行事への参加で家族様と多く過ごす時間を大切にし、協力を得ながら、本人様を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、一部の入居者様は知人やご友人と電話や手紙のやり取り、又は面会などで関係継続の支援を行っている。	家族と一緒に誕生日会や外出を行ったり、なじみの人との面会や、絵手紙・携帯電話でのやり取りの支援を行うことにより、普段から関係が途切れないようにしている。特別なことではなく、普通になじみの関係作りができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、合わない方などの関係性を十分に把握しながら、スタッフが配慮し、お互いが日々の中で支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様とのこれまでの関係性を大事にし、必要に応じ、経過のフォローや相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、本人様の言葉や思い、願いを尊重し、その人らしさの暮らし方を出るように、スタッフ間で共有し、把握、検討に努めている。	その人らしく暮らしていただくために、毎日の入居者の暮らしの中での気づきや変化をしっかり記録したうえで職員間で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様、ご本人様より、情報を収集し、経過の中で必要な情報はご家族様より再度得る事で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中での観察、コミュニケーションにより気づきなどを、スタッフ間で共有し、日々変わる状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の状態を把握し、スタッフ間で認識し意見を出し、話し合い、ご家族様に報告相談しながら介護計画を作成し、現状に沿ったケアを提供している。	家族の訪問・面会が多いことで、入居者家族を含めた話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。また、入居者の状態を把握・記録することで、現状に即した介護計画を作成し、支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテへの記録とスタッフ間の密な申し送りで入居者様の情報を共有し、支援について話し合う事で実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のその時々生まれるニーズに対応出来るよう、情報を多角的に検討し、柔軟にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際には、地域の方や、地域の幼稚園から園児を招き、触れ合い、かかわりの持てる場を設け、散歩や買い物に出掛け、地域の人と交流を持ち、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人ご家族様の希望を取り入れている。地域のの医師に来て頂いており、密な信頼関係を築いている為、適切な医療を受けている。	かかりつけ医は入居者・ご家族の希望を取り入れている。入居者は月2回の定期受診を受けられること、入居者・家族との信頼関係を築いているが、指定医師外の受診の際は家族にデータを伝えるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化や観察での気づきを細かく報告相談しているため、個々の入居者様が的確なアドバイスを得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族様からの情報交換や報告相談を積極的に行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を把握し、経過観察を行い、ご家族様との話し合いの場を設け、希望をお聞きし、ケアの方向性を検討し、終末期であっても安心して過ごせる様、スタッフ一同で支援に取り組んでいる。	契約時に話し合いを行い、本人・家族の意向を確認し、説明を行っている。入居者の状況の変化により、再度家族と主治医も加わり話し合うことで方向性を検討し方針を共有している。職員は入居者の状態を予測しケアを心がけ、入居者の状態変化に伴い研修を深めつつ、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修にて急変や、事故発生状況に合わせて、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間を想定し訓練を実施している。マニュアルを作成し、避難方法を確認し、地域との協力体制を築いている。	訓練は年2回消防署の協力を得て、入居者も参加したうえで日中・夜間を想定して、年々手際よくなり、避難の時間が短くなっている。前回訓練に参加していない職員は次回必ずシフトに入れるようにし、全職員が避難方法を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の歴史を知り、理解し、尊重する事で、その方に合わせた言葉かけや対応をしている。	新人研修や年間計画による人権やコミュニケーション等を含めた研修会を行い、職員の資質を高め、入居者一人ひとりを深く理解することで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、本人様の思いや願いを汲み取り、その上で自己決定出来る様声かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活のペースを尊重し、本人様の希望に沿ってスタッフが寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気候合わせ、本人様に洋服を一緒に選んだり、お化粧をし、その人らしい大切な身だしなみが出来るよう支援している。。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や旬の食材を取り入れ、献立も入居者様と希望や好みの食べ物を聞きながら立てる。また、下準備や調理、下膳、食器洗いを一緒に行なっている。	季節の食材にあふれた食事を、自宅で使用していたお茶碗等に盛り付けることや、テーブル拭きや下膳など一緒に行うことで、さらに食事が美味しく楽しみなものになるよう支援している。希望により、晩酌を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴に合わせた食事量とバランスを把握し、状態に合わせた食事と水分量を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを支援することで、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに合わせた声かけや誘導を実施している。体調の変化でパターンが変わった時も都度スタッフ間で声かけし、タイミングを配慮し支援している。	丁寧に記録された排泄チェック表を活用し、個々の状況やパターンを把握し、その日の状態に合わせた声かけや誘導を実施している。入居者がトイレに行きやすいように、トイレをきれいに保つことで、スリッパに履き替える手間をなくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握した上で、乳製品や繊維の多い食品を提供し、日々の食事にも気を配り、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間や入浴の好みやタイミングに合わせた声かけをする事で、安全に楽しい入浴を支援している。	入居者の希望により毎日夕方に入浴していただいている。体調等で入浴できないときは足浴を行うなど個々に添った楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に昼寝をする方など、個々の生活習慣に合わせた休息と、温度調整や清潔な寝具でその人に合わせた安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬についてスタッフ全員が何の薬か、効用、副作用を把握し、理解して配薬・管理し、状態の変化にも十分気をつけ支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握している。掃除や洗濯物を畳むなどの役割を、一人一人が持ち、好きな読書をされたり、気分転換や楽しみがある日々を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望に沿い、散歩や買い物の外出支援を行っている。また、地域の方と触れ合う機会を設ける為、初午や花見には地域に出掛けられるよう支援している。	個々の入居者の希望に添って、いつでも外出支援を行っている。地域のイベントに参加したり、事業所のイベントを自治会の掲示板で案内したり、お花見など季節に添った外出も楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望により、少額のお金を所持されている方もおり、持っている事で安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、携帯電話を所持し、遠方のご家族様とお話される為、充電の確認を行い、すぐに使える状態を維持している。また、年賀状やお手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は季節に応じた飾りつけや、花木で季節感を感じて頂けるように工夫し、光や風がよく入り、明るい空間にしている。風通しをよく行い、新鮮な空気と、温度湿度調整し、快適に過ごせる様配慮している。	共有の空間は天井が高く、ウッドデッキを囲むようなレイアウトで部屋が配置されているため、光や風が良く通り明るい。リビングにはソファや椅子が随所に配置され、入居者は思い思いに居心地よく過ごしている。また、職員の手洗いうがいを徹底し、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内、ソファ、椅子をたくさん配置し、気の合った入居者様同士やスタッフとお話したり、思い思いに過ごせる場所を工夫している。また、玄関にはベンチを設置し、外の景色をみながらくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様と相談し、写真や趣味の作品馴染みの物、家具を持って来て頂き、自宅と同じ様に、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	入居者、家族と相談し、自宅の部屋のそのままを再現する形で、使い慣れた家具やベッド、家族の写真や馴染みの品物を持っていただき、居心地よく安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事と分かる事を把握し、活かしていくために、状況に応じた声かけや見守りを行い、安全を確保し、出来る限り自立した生活を送れる様支援、工夫している。		